

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム もみじの里
日付	平成17年3月17日
	特定非営利活動法人
評価機関名	高齢者と痴呆の人のケアを大切にする会
	LIFE SUPPORT推進グループ
評価調査員	在宅介護経験10年
評価調査員	老人保健施設介護実務経験及び 居宅支援事業所介護支援専門員経験8年
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

講評	
全体を通して(特に良いと思われる点など)	
<p>「忙しくても、大変であっても主婦として家事が出来ることは嬉しい」と穏やかな表情をして、利用者が何気なく言うてくれた。職員の何気ない「ちょっと、お願い!」の声掛けに、利用者がそれぞれ得意な家事に参加する。「3食共、利用者が中心になって食事を作る」「洗濯をする」「勿論片付けもする」「掃除をする」「風呂のお湯をはる」利用者と職員が全員家族、誰が目立つでなく、誰がさせているでなく、何処にも漂っている家庭の空気のような主婦を感じる。</p> <p>利用者、職員同志が仲が良い。お風呂も一緒に入って裸の付き合いがあり、グループホームの色々なことを全員輪になってよく話し合う習慣が出来ている。</p> <p>知的障害者の認知症高齢者が一緒に生活している。独自のアプローチを個別に行う配慮もしながら、全員が仲良く生活している。「ここは居心地がエエよ…」と利用者の一人の呟きに実感があつた。マスコミから転職し、この社会を志した施設長、陽気で活発な管理者を中心に年配者から中年、若年までとバラエティに富んだ職員が明るい雰囲気をもたらしており、知的障害者の施設から来たベテラン職員のさりげなく、ポイントを得た過不足ない「声掛け」などは、その「見守り」にも裏打ちされ、見事なケアぶりに感心させられた。</p>	
特に改善の余地があると思われる点	
<p>次のような提案をした</p> <p>堀コタツのある和室は3面共開放されている。又、玄関ゾーンから居間を見通せたり、外の空気が気になることもある。障子が衝立のようなものを工夫して置いて居間空間のバリエーションを作ってはどうか。</p> <p>開設してまもなく1年経過するので、そろそろ家族との関係を深耕するような仕掛けを考えても良いのではないのでしょうか。例えばホームや利用者の様子を知って貰う“お便り”を定期的に家族に届ける。又、家族を巻き込んだ行事や活動を計画する。</p> <p>今は元気な人が多いので生活に不自由はないが、今のうちから毎日少しずつ心身機能維持のためのリハビリ体操等しておいた方が良いと思う。話し合いの中に頭の体操も取り入れたりしてはどうでしょう。</p>	

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>「洗濯物を干しに出かける人」「洗濯物を畳んで整理する人」「料理の下ごしらえを自分の役目のように進んでする人」「嫌々ながらも今日は血洗いに参加する人」「…」など家事の間もあちこちで会話が弾んでいる。</p> <p>「居間の掃除は私の担当なのよ…」と自負する誇らしげな話ぶり…。</p> <p>利用者の持っている能力を生かし且つ隠れた力を引き出して、利用者と職員共に楽しい生活が出来、何事にも喜び合える仲間になろうという関係作りを目指している。グループホームの生き生きとした暮らしだと感じさせられた。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>生活空間をどのように使っていくか、利用者と職員でお茶を飲みながら良く話し合う。食卓とソファの位置は、職員から提案があり、皆んなで決めた。リビングに時計があった方が良く利用者から提案があり、取り付ける場所を皆んなで決めた。このように利用者が何でも言える雰囲気が出来ている。</p> <p>居室の扉のデザインは全部違って、自分の部屋も分かるし馴染みが湧く。名札は付けないでという利用者の要望がある。トイレも表示はない。今は良いかも知れないが特にトイレは早目に表示した方が良さそう。</p> <p>居室には写真や花を飾っている人や、部屋で植木鉢に花を育てている人もいる。外には広いウッドデッキがあり、多目的に使用できる。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

Ⅲ ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <p>開設して10ヶ月経過、利用者が職員と共に生活の中で役割を分担して、素晴らしい家庭をつくって生活していることは素晴らしいと思う。</p> <p>毎日の生活から、皆んなで家事を分担しているが、「何気なく出来るだろう」と思っていた人が「ひょっとしたことが出来ていた」のを見つけた時は、「びっくりするやら嬉しいやら職員への励みになる」と施設長や管理者が言っているのを聞いて、これからのグループホームが楽しみだなと感じた。</p> <p>これからは、知的障害者もどんどん高齢化が進み、認知症などの障害も加わっていく人も増えていくと考えられる。このような人々も含めた高齢者ケアの重要性は益々高まっていくだろう。普通の高齢者ケアと知的障害者のケアのノウハウが融合し合っ、自由で何でも出来るこの環境が、意外な能力を引き出したり、相互の人々が支え合っていく生き方が、良い結果を生み出していくことに期待し、今後とも見守っていきたい。</p>		

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。</p> <p>知的障害者の更正や授産施設で承らる支援活動に取り組んでこれ、今回認知症の高齢者の生活支援を開始したグループホームである。</p> <p>高齢化社会を迎え、様々な障害者、高齢者も多様化するだろうと思うので、開谷在宅支援センターの活動も含めて、この地域で新しい先駆的活動を期待したい。</p> <p>このグループホームは、田園と山裾に囲まれた良い環境にあり、夕焼けに染まる田んぼ道を職員と利用者が1列になって「夕焼け小焼けで日が暮れて…」と歌いながら地域の人の見守る中を散歩しているような、影絵の穏やかな風景が目に見え、</p>		